

(曾於郡末吉町二之方)

### 位置と環境

末吉町は、鹿児島県の東北部にあり、宮崎県都市と県境をなし、面積は約129km<sup>2</sup>である。

町の東部は、山稜地帯で河川の水源地となり、大淀川の源流や安楽川が溪谷を形成している。

町の西部は、標高200m前後のシラス台地を小河川が樹枝状に浸食し、狭小の谷水田となっている。

本遺跡は、町の中央部の台地上に位置し、緩やかな起伏のある舌状台地に立地している。遺跡の後背地は、畑地帯となっているが、現在では市街地化が進んでいる。

### 調査の経緯

末吉町は、平成4年に二之方地区において町民プール公園を計画した。そこで、本町教育委員会は、県教育委員会の協力により分布調査を実施した。

その結果、土器片や石鏃などの遺物を採集し、遺跡であることが判明した。

これを受けて、平成5年5月には、本町教育委員会が調査主体となり、確認調査を実施した。

調査の結果、縄文早期と縄文後期の遺物を確認したために、関係機関との協議により、本調査を実施した。調査は、平成5年の7月に実施し、その対象面積は、約4,000m<sup>2</sup>であった。

### 遺構と遺物

遺跡は、A地区とB地区とに分けて調査区を設定し、調査を実施した。その結果、A地区の調査面積は、約1,900m<sup>2</sup>である。

遺物包含層はVII層（P11＝約7,500年前の桜島降下軽石層）の下位のVIII層黒色土層で、遺構検出はIX層面（薩摩火山灰層＝約11,500年前の桜島噴出物）で行った。従って、A区は縄文時代早期前葉に利用された場所と考えられる。

縄文早期の遺構は、竪穴住居跡、連穴土坑、落とし穴、集石遺構などを検出した。当時の生活活動を伺わせる遺構配置がみられた。すなわち、落とし穴は小動物の確保し、連穴土坑や集石遺構は、調理施設として理解されており、遺構のセット関係は重要であ



第1図 地蔵免遺跡の位置

る。

集石遺構は、集石の数やその形態の違いのあるものなど6基が検出された。

落とし穴は、直径150cm、深さ130cmを測り、底面には、逆茂木痕と考えられる小ピットを伴っていた。

縄文早期の遺物は、石器が少なく、土器も良好なものは多くなかったが、前平式土器を主体とする地区と山形押型文土器を主体とする地区とが分かれて土器が出土した。

縄文早期の土器は、前平式土器と山形押型文土器であるが、わずかながら他型式もみられた。

前平式土器は、円筒形平底土器で、外面上部に楔形突起を縦列に2段に巡らしている。その間に貝殻の刺突を施している。また、器面は、全体に貝殻による調整痕を明瞭に認め、口径は20cm程であるが、器高については不明である。

山形押型文土器は、小片で詳しく判らないが、外面に山形押型文が施文を認める。出土状況は、小片が集中的にみられたが、同一個体の可能性を思わせる資料である。

そのほかに、変形撚糸文土器や手向山式土器、石坂式土器などが出土した。

縄文早期の石器は、石鏃6点と磨石・石皿などがあり、特筆すべきものはない。ただし、黒曜石の剥片50点ほどが集中し、ブロックを形成している箇所があり、石器製作の場所と考えられる。

B区の調査区は、調査対象面積が約2,000m<sup>2</sup>である。本地区では、III層黒褐色腐植土層の下部位が遺物包含層で、縄文時代後期中葉に比定できるもので

あった。

縄文後期の遺構は、B区全体に土坑や柱穴などを検出した。その検出状況は、土坑や柱穴が散在するようであったために、その性格や関連を明確に把握できなかった。

縄文後期の遺物は、石器の出土が少なく、土器は南九州の在来系土器とされる貝殻文施文のある市来式土器が主に出土した。そのほかの土器型式は希少であった。

縄文後期の土器は、後期中葉を代表する市来式土器が主体である。この土器は、口縁部付近で肥厚させ、その上下に貝殻刺突文を施すもので、南九州で盛行した土器群である。本遺跡の土器は、小片で多くを知り得ないが、口縁部が山形口縁と平口縁とが共に存在し、器面を貝殻で調整した後で、貝殻刺突文を斜位に施している。

そのほかに、縄文時代晩期の土器は、入佐式土器などが少量出土した。縄文晩期の石器は、磨石や石錘など少量が出土した。この石錘は、扁平な円盤状を呈し、「おもり」としての利用が考えるが、一

部に敲打痕を認めることから敲石としての機能も兼ね備えていた。

### 特徴

本遺跡での成果は、縄文早期前葉での検出遺構の種類が、セット関係を明らかにできたことである。

本遺跡は、国分市上野原遺跡と同時期の集落跡として注目された。

### 資料の所在

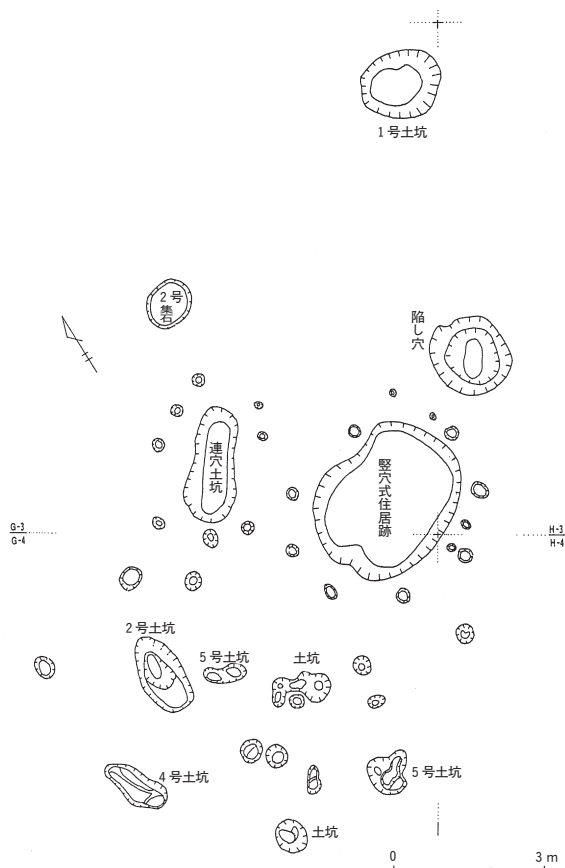
本遺跡が所在した場所は、現在「新地公園」となっており主要施設としてメセナ末吉町民プール及びメセナ会館が建設されている。調査場所には、遺跡地の標柱を立ててある。

出土遺物は、末吉町立歴史民俗資料館に保管・展示されている。

### 参考文献

末吉町教育委員会1994「地蔵免遺跡」『末吉町埋蔵文化財発掘調査報告書』14

(勝目興郎)



第2図 遺構及び土坑群実測図(報告書より)